



Q

子ども・若者世代への支援の拡充を

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



A

各施策を一体的に進めていく

- 問** ひきこもりについての正しい知識の啓発を。
- 答** 誤解や偏見は、当事者やその家族を窮地に追い詰め、家庭でこの着状態をより深刻にさせる面がある。そのため、今後は正確な理解を深めるための広報活動を積極的に進めていく。
- 問** 不登校生徒が、卒業後に市長部局との連携で支援を受けられる仕組みづくりは。
- 答** 福祉分野など、ケース会議等により市長部局と情報共有ができているところもあるが、仕組みづくりまでには至っていない。
- 問** 児童虐待防止の啓発は。
- 答** 本年6月に自治会での回覧を行った。今後も広報やホームページ等で周知に努めていく。
- 問** 雇用対策は。

- 答** 企業立地を促進し、雇用機会の拡大や定住の促進を図り、職住近接のまちづくりを進めていく。
- 問** 若年人口増加のために、雇用対策・結婚支援・子育て支援・住宅支援等の一体的な取組を。
- 答** 関係部署が連携して一体的に取り組むと同時に、それらを市内外に向けて分かりやすくPRしていく。
- ◎**その他の質問** 市民の森の今後について

Q

財政状況と今後の見通しについて

ふじわら
藤原 建志 議員



A 将来負担の軽減を図った財政運営を推進する

- 問** 平成30年度決算における財政状況は。
- 答** 一般会計決算における歳入総額は前年度比3・0割増、歳出総額も3・0割増となり、歳入歳出差引額は8億8540万5195円となった。単年度収支は2年連続で黒字となり、おおむね健全な

- 財政状況を保っている。
- 問** 一部事務組合への負担金の状況と見通しについて。
- 答** 前年度比5・2割の増となった。今後は、各一部事務組合での施設の老朽化に伴う修繕経費のほか、埼玉西部環境保全組合の新施設の稼働に伴う経費の増額が見込

- まれるため、増加を見込んでいる。
- 問** 一本松と若葉駅西口の区画整理事業は、施行期間を5年延長するが、今後の見通しと資金計画は。
- 答** 建物移転や道路築造工事などにあと3年、出来形確定測量や換地処分までを含めると5年間の延長が必要になる。資金は、主に一般会計からの繰入金と保留地処分金収入で賄い、必要に応じて市債借入などを検討する。
- 問** 校舎の老朽化、中学校のトイレなどの改修は。
- 答** 重要な課題であり、中学校のトイレ改修と体育館の照明のLED化については、できるだけ早い時期に前向きに進めていきたい。



市役所庁舎